

ロールカーペット施工要領書
(タフテッドカーペット製)

ダイヤ・カーペット株式会社
(2010年2月1日改訂)

1. まえがき

カーペットフロアはハードフロアと異なり、素材が繊維そのものです。繊維には、床材としての優れた長所がありますが、欠点もあります。

従って、長期間に亘りカーペットの美観を保持し延命を図るためには、素材であるカーペットの種類及び施工方法等を、良く理解の上管理することが重要です。

2. ロールカーペットの施工方法

(1)ロールカーペットの敷き詰めは、接着工法、グリッパー工法が標準仕様です。

他にマジックテープ工法等があります。

(2)接着工法には、全面接着工法、ピールアップ工法との組合せ工法等、商品と施工場所等により多様な接着工法が採用されています。

(3)グリッパー工法は、アンダーレイの種類と厚み・グリッパーの種類を、商品と使用場所により選定することが重要です。

3. 施工手順

(1)施工に適した下地

①コンクリート仕上げ、モルタル仕上げ、プラスチックタイル等

②下地は、乾燥した平滑で堅牢な下地であること。

③湿気の多い場所には使用しないで下さい。(カビ・臭気・汚れ等が発生する恐れがあります)

(2)下地の確認と調整

①水分を含む材質の場合は十分に乾燥していることを確認して下さい。

②ホコリ、ゴミ、油分、ワックス、塗料等を十分に取り除いて下さい。

③不陸がある場合は、平滑に補修を行って下さい。

④段差がある場合は、レベル調整を行って下さい。

⑤見切り部品は、カーペットの厚さと用途を考慮して選定して下さい。

(3)採寸とカーペットの必要量

①図面及び現場実測により、カーペットの必要量を出して下さい。

②柄物は、柄リピートを考慮(幅ロス、長さロス)して必要量を決めて下さい。

③施工に必要なロス(幅ロス、長さロス)を考慮して、必要量を決めて下さい。

④廊下や出入り口などの歩行量の多い場所は、カーペットのジョイントを極力避けて採寸して下さい。

- ⑤ジョイントは幅成り(両耳落し)でジョイントするようにして下さい。
極力、中央部と端部(幅方向)のジョイントは避けて下さい。
- ⑥ジョイントがある場合は、施工順に番号を付けて下さい。
(生産の順にカットし、ジョイント部の色差を極力小さくします)
- ⑦同一床面は同一ロットを使用して下さい。

(4) 糊の選定(接着工法)

- ①カーペット用のホルムアルデヒドF☆☆☆☆対応品を使用して下さい。
- ②下地の種類、使用商品、使用場所(用途)により選定して下さい。
- ③糊は冷暗所で保管して下さい。
冬場は糊の凍結に注意して下さい！凍結すると使用できなくなります。

(5) 基準線(墨出し)

- ①歩行頻度とロスを考慮して基準線を出して下さい。
- ②部屋の全幅・全長を測定して、壁にできる限り平行になるよう考慮して下さい。

(6) 糊の塗布

- ①基準線に沿って、施工する部分に塗布して下さい。
- ②くし目コテを使用して塗布して下さい。
- ③接着の場合は、塗布後短時間でカーペットを貼れる部分のみ塗布して下さい。
(糊が乾燥すると接着できなくなります)
- ④ピールアップの場合は、糊が乾燥(透明になって)してカーペットを貼って下さい。
(糊が白い状態(未乾燥)ではカーペットが剥がれなくなります)
- ⑤糊の臭いが気になる場合は、換気を行って下さい。

(7) グリッパー施工とアンダーレイの敷き込み(グリッパー工法)

- ①部屋の4辺に、カーペット厚と用途に合ったグリッパーを施工して下さい。
- ②グリッパーの固定は、専用釘(下地により選定)を使用して下さい。釘が使用できない床は、カーペットの張力に耐える接着剤で固定して下さい。
- ③グリッパーの位置は、カーペットの厚みに合った、壁との間隔をとって下さい。(カーペット総厚さの2/3程度)
- ④アンダーレイは、グリッパー厚に合った指定の物を使用して下さい。
- ⑤アンダーレイの施工は、部分的に糊を使用して、床に固定して下さい。
- ⑥アンダーレイは乾燥していることを確認して下さい。

(8)カーペットの敷き込み

- ①商品名(品番)、色相(色番)、ロットNO、数量を確認して下さい。
- ②カーペットのパイルは方向性がありますので、方向を確認して下さい。
(基布幅端部の色線の違いで確認できます)ジョイントがある場合は、必ず方向を合わせて下さい。(方向が違うと色差が発生します)
- ③カーペットを広げ、巻きジワ等の癖を取ると同時に、施工室内温度に馴染ませて下さい。
- ④カーペットは、目に沿ってカットして下さい。
- ⑤柄物でジョイントする場合は、柄リピートを合わせてカットして下さい。
- ⑥部屋の全幅・全長を確認し、カーペットが壁と平行になるように基準(墨出し)を決めて下さい。

⑦カーペットのジョイント

A-接着方式

- (a)ジョイントがある場合は、両耳をカット(1~2cm)し、ジョイントするカーペットを突き詰めて施工順に並べて下さい。
(修正が不可能な蛇行部は直線上にカットして下さい)
- (b)中央部の基準線に合わせた2枚を、それぞれ約1/2をめぐり(6)に従ってのりを布して下さい。
- (c)めくった2枚を元に戻し、基準線に合わせて突き詰めて施工して下さい。(程度の軽い長さ方向の蛇行・幅方向の湾曲はニーキッカーで修正して下さい、テンションを掛けた部分は接着剤が乾燥するまで重石で圧着して下さい)
- (d)目に沿ってカット出来なかった箇所は、ジョイントボンド等で糸ほつれ止め処理を行って下さい。
- (e)歩行量の激しい場所はジョイントボンドで処理して下さい。
- (f)長さ方向のジョイントは、ジョイントボンドで処理して下さい。
- (g)カーペットの敷き詰めが完了したら、シワ・フクレ等を修正しながら、ローラーで圧着して下さい。
- (h)施工が完了した部分は、歩行禁止にして下さい。
- (i)以降同様な作業を繰り返して、全面を施工して下さい。

B-グリッパー方式

- (a)施工済みアンダーレイ上に、接着方式と同様にカーペットを並べます。
- (b)ジョイント部の下に指定のシーミングテープを敷き入れます。
- (c)シーミングテープ用アイロン(160℃前後)で、テープ上の樹脂を溶融します。
(PP基布の溶融に注意して下さい)

(d) 溶融した部分に、カーペットジョイント部を突き詰めて圧着し、冷却固定してください。(溶融不十分な場合は接着力が低下します、又、樹脂が冷却するまでは、重石をして下さい)

(e) その他は、接着方式と同様に注意してジョイントして下さい。

(f) ジョイントが完了したら、グリッパーに引っ掛け、カーペットにテンションを掛けピンに固定し、端部を壁との隙間に押し込んで下さい。

(グリッパーへのカーペット施工は、内装工事施工技術指針を参照願う)

③ 施工中臭いが気になる場合は、換気を行って下さい。(臭いは素材特有ものです)

4. 施工完了後のご注意

(1) 施工完了後は関係者以外の立ち入りを禁止し、ビニールシート等で養生して下さい。(養生材はパイルへの汚染の無い物をご使用下さい)

(2) 施工後の残材等を廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に処分を委託して下さい。

(3) 梱包材などを焼却する場合は、都道府県条例に基づいて処分して下さい。

(4) 施工後、台車・家具等の重量物を移動する場合は、合板等で保護して下さい。

(5) 引渡し清掃の際、清掃業者に漂白剤や錆落とし剤をこぼさないよう指導して下さい。パイルの変色を招きます。

5. 施工の標準仕様書について

下記施工標準仕様書をご確認し、参考にして下さい。

国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の公共建築工事標準仕様書(建築工事編)

社団法人日本建築学会編集の建築標準仕様書・同解説(JASS26 内装工事)

文部科学省建築工事標準仕様書(文教施設整備技術研究会)

日本建設インテリア事業共同組合連合会の内装工事施工技術指針・内装工事施工管理指針

6. 関連する法規・法令等について

次の法規・法令等を確認して下さい。

建築基準法(国土交通省)、消防法(総務省消防庁)、日本工業規格(経済産業省)

高齢者・身体障害者等が円滑に利用できる特定建築物の促進に関する法律(ハートビル法)、

労働安全衛生法

以上